

シリーズ
環境企業訪問1

事業活動と環境保全の調和を目指す、
エネルギービジネスのパイオニア



取材当日。天然ガスの持つ可能性について活発な議論が交わされました

99大阪ガス

本社：大阪市中央区平野町4-1-2
URL：<http://www.osakagas.co.jp/index.htm>
設立：1897年4月10日
資本金：1,321億6,666万円
従業員数：7,081人



都市ガスを中心とした、近畿のエネルギー供給の要を担う大阪ガス。エネルギー・ビジネス・都市ビジネスを推進する上で環境保全を極めて大きな問題であると捉え、同社ではグループ全体でさまざまな取り組みを行っています。持続可能な社会発展への貢献を目指す大阪ガスの、事業活動における環境保全の取り組みとその姿勢についてお話をうかがいました。

ガスを届けるまでにできること

大阪ガスでは、環境に与える負荷を軽減するために事業活動のあらゆる段階に配慮しています。なかでも最も力を注いでいるのが、温室効果ガスの排出量の抑制。各部門に毎年CO₂の削減目標を設定し、これを業績評価項目に組み込むことで、会社を挙げてエネルギー管理にあたっています。

「都市ガスの製造工程で発生する冷熱やガス圧力などをを利用して発電することにより、購入する電力量を減らし、製造所でのCO₂排出量の削減を行っています。自社の施設から直接排出するCO₂削減だけではなく、電力量の削減という間接的な形でのCO₂削減も大切なことではないでしょうか」と語るのは、渡部徳博・環境部地球環境マネージャー。

大阪ガス全体での地道な努力は、2003年度、CO₂排出量15%削減（前年度比）、全製造所における購入電力量14%削減（1998年度比）という形で結実し、ガスが



天然ガスを燃料とする効率的な発電設備「ガスコンバインド発電システム」の導入はCO₂排出量約30%を抑制

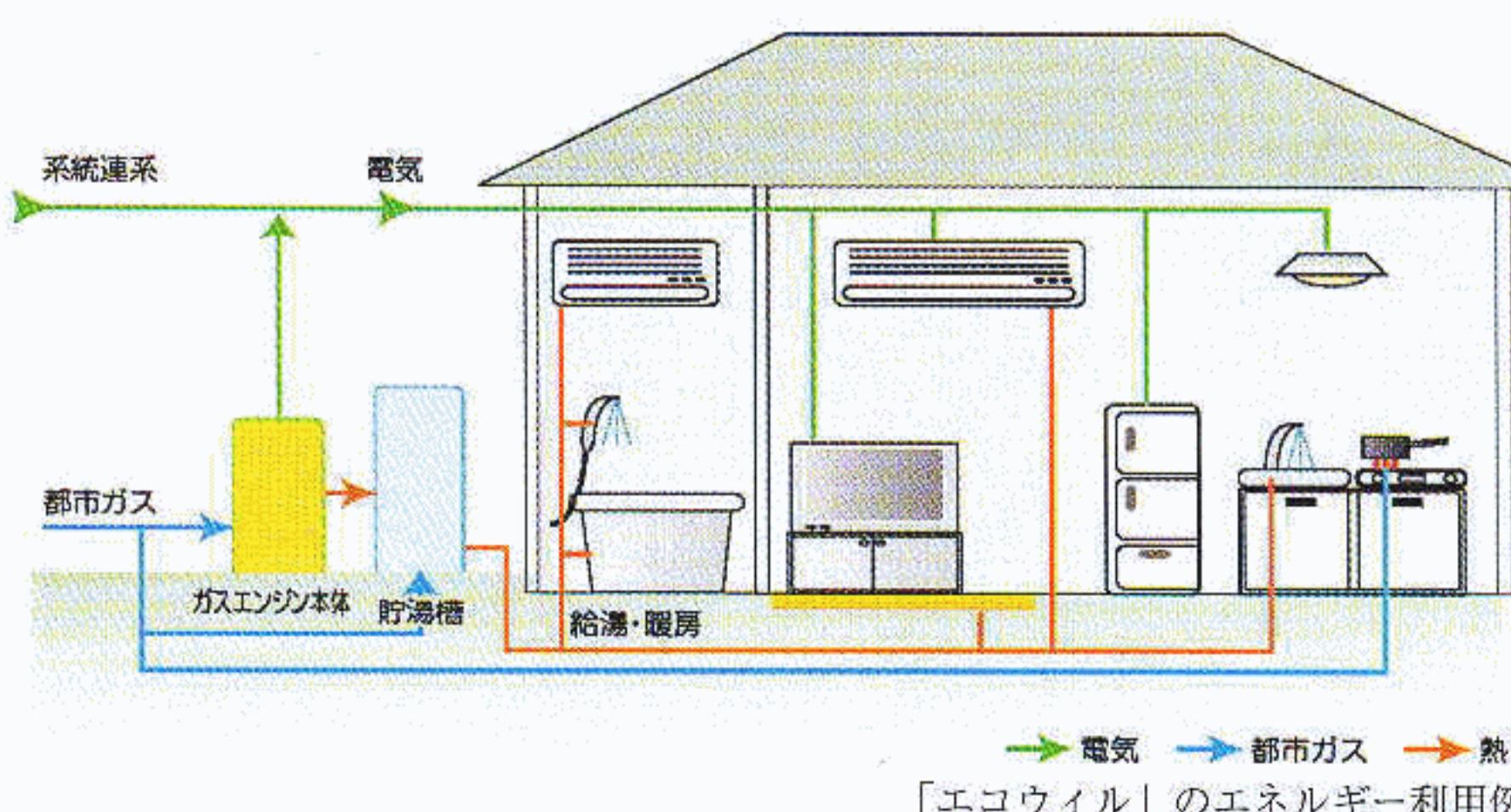
使用される前段階での省資源・省エネルギーを実現しました。

CO₂排出量削減のほかにも、大阪ガスでは廃棄物の削減や再生利用率の向上にも取り組んでいます。「産業廃棄物」の最終処理（埋め立て処理）を限りなくゼロに近づける“ゼロエミッション”や「一般廃棄物」を含めたすべての廃棄物の削減、再資源化に努めています。各製造所では、廃棄物を他の原料に再利用するマテリアルリサイクルと可燃廃棄物の燃焼時の熱エネルギーとして利用するサーマルリサイクルを推進。産業廃棄物の再資源化率は製造所で100%を達成しました。さらに使用済みガス機器や受注工事時のがれき類の再資源化を行うことにより、大阪ガス全体では産業廃棄物の再資源化率は80%となりました。

利用者の協力とともに

天然ガスは、最もCO₂排出量が少ない化石燃料です。大阪ガスでは、天然ガスの一層の普及とともに、エネルギーの高効率利用を図るために新しい機器・新システムの開発にも取り組んでいます。中でも、「発電」と同時に発生する「排熱」を有効利用できる“ガスコーチェネレーションシステム”は、投入エネルギーを70~80%程度まで無駄なく使い切ることができるとあって、政府も普及促進に積極的です。大阪ガスでは、2003年3月、世界に先駆けて、家庭用ガスエンジンコーチェネレーションシステム「エコウイル」を発売。発電出力1kWhのガスエンジンを用い、家庭で発電した電力と排熱で、電気・給湯・暖房を賄うことができるこのシステムには、環境性・経済性の面からも大きな期待が寄せられています。

「購入電力と熱エネルギーを利用する従来方式は、エネルギー利用率が低く、“無駄”がありました。しかしこのシステムにより発電時に発生する熱を給湯や暖房に有効活用できるため、従来のガス給湯器と購入電力を用いた場合に比べ、発電1kWhあたり約20%のエネルギーを削減するとともにCO₂排出量を30%削減します。“環境にはいいが、コストが高くつく”では、やはりお客様には受け入れていただけません。経済性との両立をいかに実現するかは、環境保全につきまとう課題でしょう。自社の活動だけではない、利用者への理解と協力の重要性を説く鈴木康夫・環境部地球環境チーム課長の言葉には、大阪ガスの「信頼され、選ばれる企業を目指して」という考え方を通じるものを感じました。



[環境データ]

大阪ガスグループの環境行動指針

大阪ガスでは、これまでの大坂ガス中心に行ってきた「環境行動」を、グループ全体にまで広めて推進していくことをより明確にするため、2004年3月、「大阪ガスグループ 環境基本理念」および「大阪ガスグループ 環境行動指針」として改定しました。グループとして取り組んでいく“環境行動指針”には下記の3つを掲げています。

- ①大阪ガスグループの事業活動における環境負荷の軽減
- ②大阪ガスグループの製品・サービスによる環境負荷軽減への貢献
- ③地域および国内外における環境改善への貢献

この3つの指針それぞれにおいて、大阪ガスでは2010年度の目標を設定するとともに、より早い目標達成を目指して、2005年度中期環境目標を策定。具体的な数字を用いた計画では、定量目標24項目を含む34項目の環境活動を推進し、2003年度の時点で20項目が目標達成しています。日本のエネルギー・ビジネス・都市ビジネスに大きな役割を果たす大阪ガスグループの積極果敢な環境問題への取り組みは、企業と環境、企業と顧客の関係性を新たに問いかけるものになることでしょう。